

10

NEW INSIGHTS IN
CLIMATE SCIENCE

2022

Insight 10:

構造的な障壁と持続不可能なロックインの打破が必要である

東京大学/国立環境研究所・江守正多氏

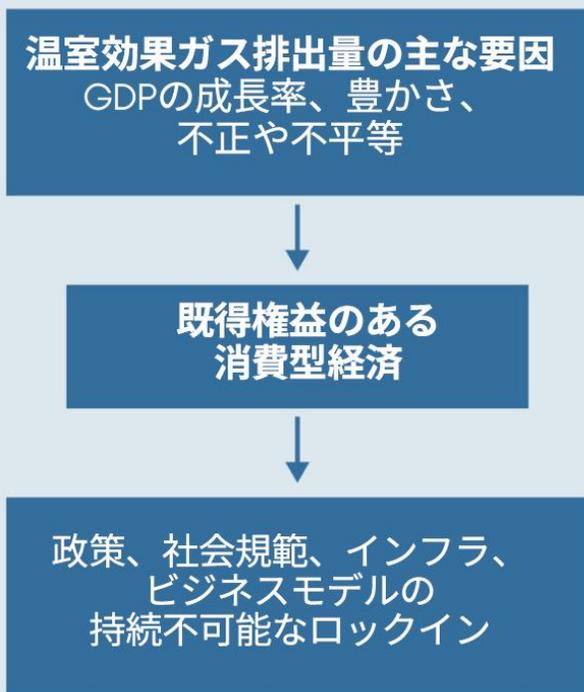
現在の固定概念 = 「資本集約型社会」ベース

ステータス消費志向、大量消費のビジネスモデル、
曖昧な気候政策、化石燃料をベースとした社会 etc...

- 気温上昇を2°C未満に抑えるための緩和戦略はまだ不十分。
- 社会の発展によって、気候変動の緩和にとって大きな障害となる「資本集約型経済」が浸透している。

本当にサステナブルな社会に移行するには？

現在の固定概念

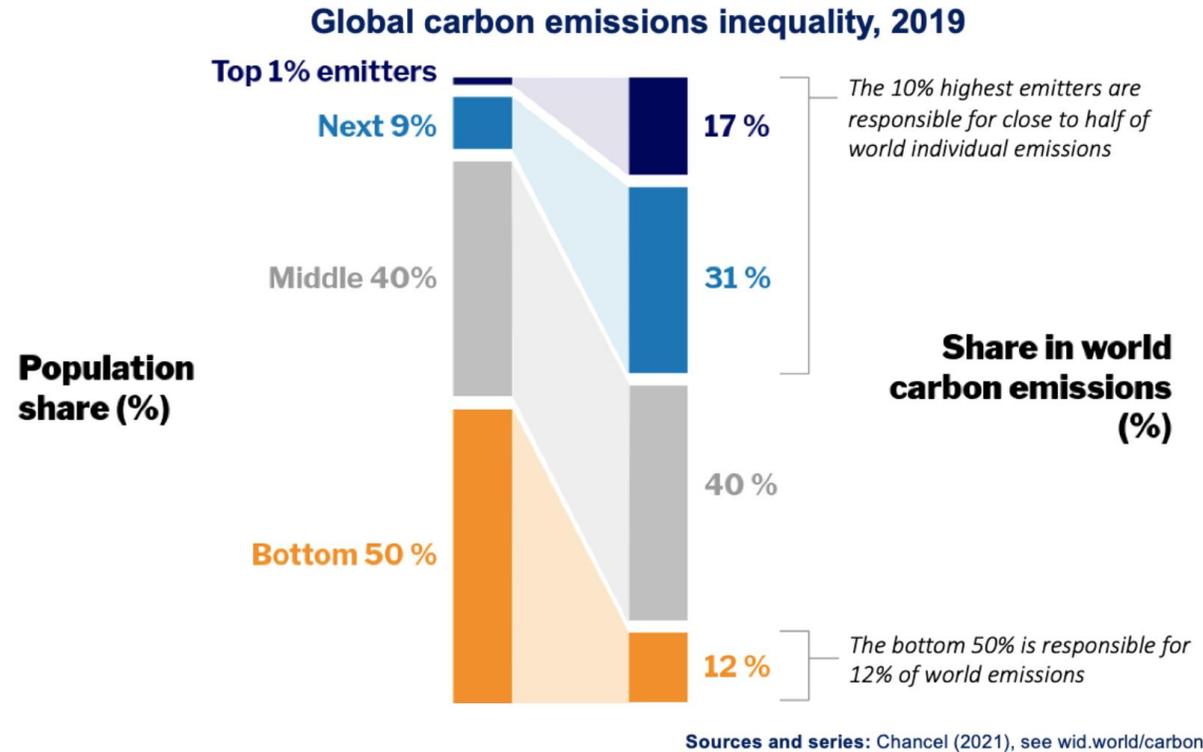


変革につながる介入を Transformative interventions



資源集約型経済からの脱却 低炭素型開発へ

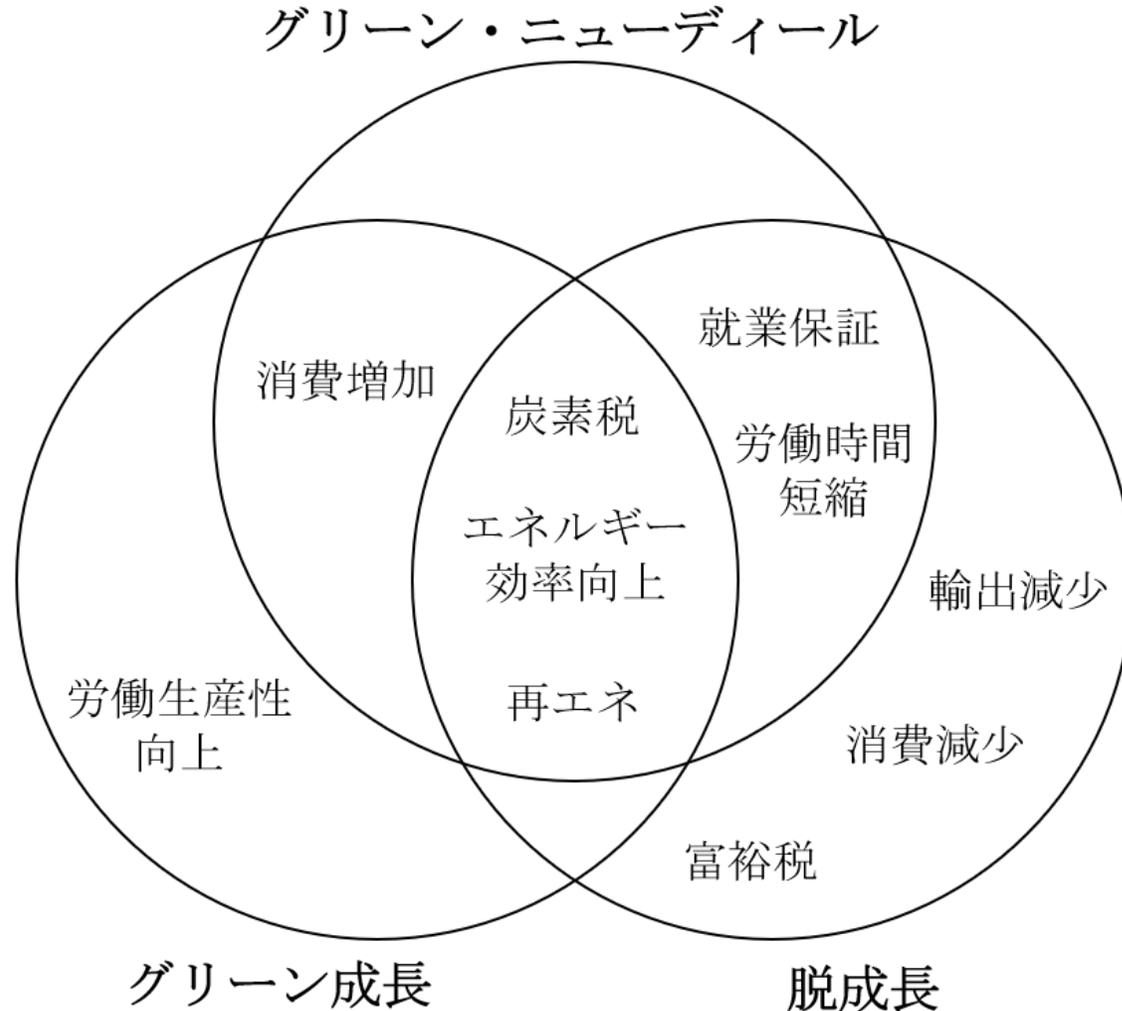
CO₂排出量と所得格差



- 上位10%の富裕層がCO₂排出の半分程度に責任がある。
- 富裕層の過剰消費とそのための過剰生産を容認していたら、世界規模の脱炭素は不可能ではないか。

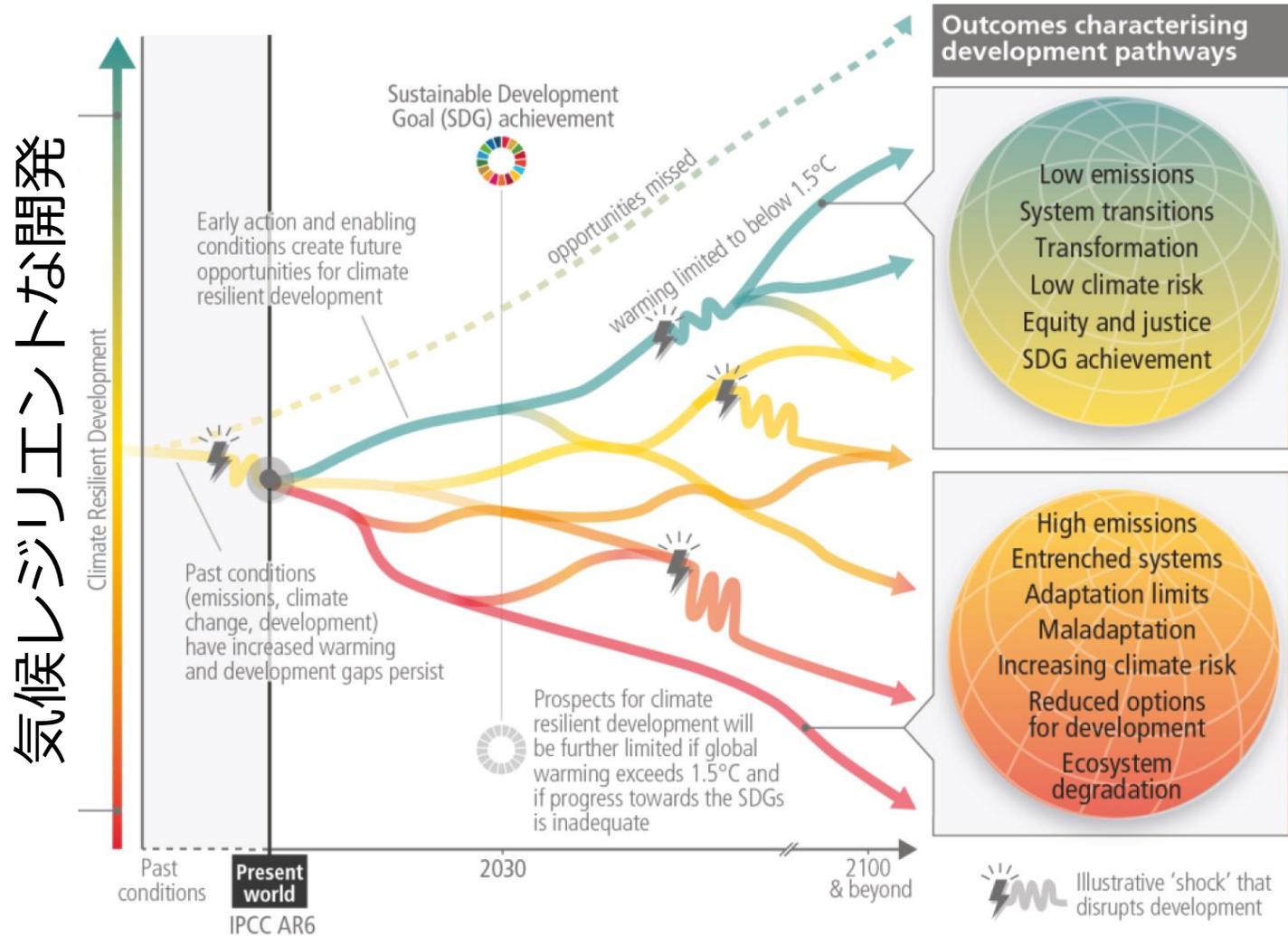
(World Inequality Database, 2021)

グリーン成長、GND、脱成長



- グリーン成長は温室効果ガス排出は削減できるが、格差と失業は悪化
- GNDは排出削減、格差と失業が改善するが、政府の債務が悪化
- 脱成長は排出削減、格差と失業がさらに改善するが、政府債務がさらに悪化

選択と行動によって将来の世界が決まっていく



持続可能な世界
気候リスクが低く
公正な社会

(IPCC AR6 SYR, Fig.SPM.6)